



議会だより

第107号
かわさき
平成24年8月1日発行



かわさきパン博



6月
定例会議

児童福祉関連等、8,967万円を追加補正 **2**
夜間議会・議会報告会を開催 **7**
5人の議員が登壇～一般質問～ **9**

町民の生命と財産を守るため 消防車を購入



平成24年現在で、川崎町消防団が所有している消防車は、古いもので23年間使用しており、故障がひんぱんに発生しています。

平成22年度に過疎法が延長されたことから、消防車の購入計画を実施し、一般財源の持ち出しを少しでも抑えたいと考えています。

なお、今回購入の消防車は第8分団(森安)、第9分団(池尻)に本年12月頃納車されます。

指導主事 非常勤から常勤へ 条例の一部改正

川崎町非常勤職員の報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第19条第2項の改正により、市町村教育委員会事務局における指導主事の設置が義務化されたことに伴い、現在置かれている指導主事を非常勤制から常勤制にするものです。

※指導主事とは…学校教育や学習指導に関する教養や経験がある者の中から教育委員会が任命し、その職務は、学校に対する指導、助言の全般です。

専決処分の報告

○川崎町税条例の一部を改正する条例

(専決処分の理由)

地方税法の一部を改正する法律が平成24年3月31日公布され、同年4月1日より施行されることに伴い、川崎町税条例の一部を早急に改正する必要性が生じたためです。

○川崎町国民健康保険税条例の一部を改正する条例

(専決処分の理由)

地方税法の一部を改正する法律が平成24年3月31日公布され、同年4月1日より施行されることに伴い、川崎町国民健康保険税条例の一部を早急に改正する必要性が生じたためです。

○平成24年度川崎町学校給食センター特別会計補正予算(第1号)

(専決処分の理由)

川崎町学校給食センター特別会計は、平成23年度ま

での累積赤字が517万円となっているため、本年度の補正予算で補てんするものです。

○平成24年度川崎町住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算(第1号)

(専決処分の理由)

川崎町住宅新築資金等貸付事業特別会計は、平成23年度までの累積赤字が6億454万円となっているため、本年度の補正予算で補てんするものです。なお、単年度では黒字であり、赤字も少しずつではあるが減少しています。

○平成24年度川崎町国民健康保険事業勘定特別会計補正予算(第1号)

国民健康保険事業勘定特別会計は、平成23年度までの累積赤字が7億1,534万円となっているため、本年度の補正予算で補てんするものです。

(このページの金額はすべて千円未満四捨五入で表示しています)

児童福祉関連等 8,967万円を追加補正

【平成24年度一般会計・国民健康保険事業勘定特別会計・水道事業会計補正予算】

一般会計 8,125 万円増 (総額 90 億 831 万円)
国保事業 192 万円増 (総額 28 億 4,340 万円)
水道事業 650 万円増 (総額 4 億 3,083 万円)

一般会計 (主なものを抜粋)

・議会費 99 万円
 ・電算費 361 万円
 ・まちづくり推進費 262 万円

各委員会の研修視察旅費の増
 児童手当の支給システム改修
 草刈機 26 台購入
 (斜面専用 3 台、肩掛け式 20 台、背負い式 3 台)

・児童福祉総務費 60 万円
 ・地域子育て支援センター費 116 万円

民間児童館活動助成金の一般財源化
 児童虐待防止対策に要する臨時職員賃金

※児童虐待の報告が相当な数上がってきているとのことでした。学校に行かせない、食事を十分に与えないなど、これまで平均して1日3.5件の相談や報告等があり、この1年では57件162人の虐待件数のうち、その多くが未解決という現状であるとの報告でした。議会としても特別な取り組みを考えようという意見が出ました。



子育て支援センター わくわく広場



・商工振興費 280 万円
 ・道路維持費 4,144 万円
 ・道路新設改良費 2,200 万円
 ・かがやけ川崎応援基金 104 万円

プレミアム付商品券
 (1,000 円×4,000 枚×70%) の助成
 岩鼻田川線送水管閉塞工事
 町道東川村中線道路工事 200m
 基金への積み立て

国民健康保険事業勘定特別会計

・保健事業費 192 万円 特定検診未受診者や保健指導未利用者対策

水道事業会計

・受託工事費 650 万円 町道東川村中線道路工事に伴う配水管布設替
 受託工事

(このページの金額はすべて千円未満四捨五入で表示しています)

平成24年度

通年議会がスタート!!

— 4月2日定例会から —

川崎町議会では、平成22年7月1日「川崎町議会基本条例」を制定、施行させ、この基本条例を議会の最高規範として、議会・議員活動に取り組んでいるところであります。

基本条例第3条に「議会の会期を通年とする」と定めており、議会の会期を1年とすることにより、議会の多様な運営や緊急時の対応など、必要な時にいつでも議会活動が行える状態にしたものであります。

東日本大震災におけるがれきの受け入れに関する決議

(1) 3月27日の議会運営委員会において「東日本大震災の被災地の一日も早い復旧、復興を図る上で、膨大ながれきの処理が緊急課題となっており、安全基準をすべて満たすことを大前提として、本町としてもがれきの受け入れを表明すべきである」との問題提起がありました。

議会運営委員会としては賛成者多数でありましたが、重大な課題であり全議員の意見を集約する必要があることから、総務、民生、建産の各常任委員会に審議を付託し、その結果をふまえて本会議審査することに決しました。

(2) 本議案は議員発議として、提出者議会運営委員長、賛同者各常任委員長により議長に提出、本会議審査において質疑、討論の結果、賛成多数で決議されました。決議書の骨子は次のとおりです。

『東日本大震災被災地の一日も早い復旧、復興を実現する上で、膨大ながれきの処理が緊急課題となっている。全国の自治体が協力して、一定の条件のもとに通常の廃棄物に相当するがれきの受け入れを検討すべきである。そのために福岡県をはじめ関係自治体との協議を開始し、それらの情報を開示して町民及び関係者の

平成23年度は一般選挙の年であったため、4月中は旧議員、5月の選挙後は新議員となり、議員構成等審議のため臨時的議会に対処、平成23年6月1日から24年3月末まで10か月間の変則的な通年議会となりました。

本年度は4月2日(月)町長により、平成24年度議会が招集され、同日定例会を開議、会期を平成24年4月2日から平成25年3月31日までとする本格的な「通年議会」をスタートさせたところであります。

理解を得ながら、科学的な知見により放射能の影響を十分検証し、放射性物質に関する安全基準をすべて満たすことを絶対条件として、本町に対しがれきの受け入れを要請するものである』

◎賛成意見

(**繁永議員**) 放射性物質に関する安全基準をすべて満たしているなら賛成

(**掛橋議員**) 私たちの町も鈹害復旧の折には、多くの税金を使って支援を受けた。まず日本人として考えるべき。

◎反対意見

(**千葉議員**) 阪神淡路大震災の時のがれき量(2000万トン)と今回は(2300万トン)さほど変わらないのに、兵庫県でできたことがなぜ東北3県でできないのか。低レベルの放射線でも人体に影響がないとは言えない。

(**西山議員**) 今の焼却場は老朽化による1年かけての大修理の最中であり、現実的に無理がある。

平成24年度 第1回定例会 議案一覧と賛否結果

議案番号	案 件 名	賛否の結果												
		小松	有田	西山	千葉	樋口	千住	大谷	櫻井	伊藤	掛橋	繁永	北代	瓜野
発議第1号	東日本大震災におけるがれきの受け入れに関する決議について	○	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	休
発委第1号	川崎町議会議員の議員報酬の特例に関する条例及び川崎町議会議員の期末手当の特例に関する条例を廃止する条例について	(可決) 簡易表決												

請 願

住民の安心・安全を支える公務・公共サービスの体制・機能の充実を求める請願(採択)

国の出先機関を原則廃止するアクションプランは、財政状態の悪い自治体では住民の負担が大きく、行政サービスに差がでるため、住民の生命を守り、安心・安全の確保を国に求めるものです。

建設産業委員長報告

2回にわたって審議し、請願者の利益等のためではないかなどの意見が出ましたが、討論採決の結果、住民の安心・安全を確保するために採択すべきものと決定しました。

採決の結果

簡易表決により採択となりました。

少人数学級の推進など定数改善・義務教育費国庫負担制度2分の1復元に係る意見書採択の要請(不採択)

子どもたちの教育の機会均等と30人以下学級による学力向上、問題行動の減少等の成果を基に早期の実現を国に求めるものです。

民生文教委員長報告

本来、保護者から提出されるべきものが、教員の組合から提出されていることに疑問を感じる。また、池尻中学校の生徒減少による学級再編成で、教室の拡張工事が補正予算として計上されており、賛成すると矛盾が生じるということから、委員会で討論採決の結果、賛成1、反対3で不採択とすべきものとなりました。

賛成意見(千葉議員)

日本の一般支出に占める教育支出の割合は9.5%で、OECD加盟国34ヶ国中33位であり、いかにお金をかけていないかという事である。少人数学級が学力の向上に大きな成果をあげているというのは明らかです。

反対意見(有田議員)

OECD34ヶ国のうち、多くはキリスト教国であり、日曜学級が母体となっている。そのところの関連について説明しないと納得できない。

採決の結果

賛成7、反対9で不採択となりました。

平成24年度 第2回定例会(6月会議) 議案一覧と賛否結果

議案番号	案 件 名	賛否の結果												
		小松	有田	西山	千葉	樋口	千住	大谷	櫻井	伊藤	掛橋	繁永	北代	瓜野
請願第2号	少人数学級の推進など定数改善、義務教育費国庫負担制度2分の1復元に係る意見書採択の要請	●	●	○	○	○	○	●	○	●	●	●	○	●
請願第1号	住民の安全・安心を支える公務・公共サービスの体制・機能の充実を求める請願	採 択												
報告第1号	専決処分の報告について (川崎町税条例の一部を改正する条例)	報告のため採決はありませんでした												
報告第2号	専決処分の報告について (川崎町国民健康保険税条例の一部を改正する条例)	報告のため採決はありませんでした												
報告第3号	専決処分の報告について (平成24年度学校給食センター特別会計補正予算(第1号))	報告のため採決はありませんでした												
報告第4号	専決処分の報告について (平成24年度川崎町住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算(第1号))	報告のため採決はありませんでした												
報告第5号	専決処分の報告について (平成24年度川崎町国民健康保険事業勘定特別会計補正予算(第1号))	報告のため採決はありませんでした												
議案第28号	財産の取得について (川崎町消防団小型動力ポンプ積載車購入)	(可決) 簡易表決												
議案第29号	川崎町非常勤職員の報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例について	(可決) 簡易表決												
議案第30号	平成24年度川崎町一般会計補正予算(第1号)について	(可決) 簡易表決												
議案第31号	平成24年度川崎町国民健康保険事業勘定特別会計補正予算(第2号)について	(可決) 簡易表決												
議案第32号	平成24年度川崎町水道事業会計補正予算(第1号)について	(可決) 簡易表決												

※賛否表の表示は、○賛成、●反対、㊦欠席、㊧退席となっています。
※簡易表決とは…あらかじめ議員全員の賛成が見込まれる場合に、議長が賛成者の起立を求めず「異議ありませんか」と諮ることににより可否を問う採決方法です。



川崎町初の 夜間議会(一般質問) を開きます

来る9月定例会(議会)において、より多くの町民の皆さまに議会を傍聴していただくために、夜間議会を開催します。

最終日にあたる9月14日(金)午後6時から2時間程度、議員による執行部に対する「一般質問」を行います。多くの皆さまの傍

聴をお待ちしています。

※なお、川崎町議会のホームページではインターネットによる本会議の生中継及び録画中継も行っています。川崎町議会のアドレスは下記のとおりです。

(<http://www.gikai-kawasaki.com/>)

議会報告会 を 開催します

平成23年度 議会報告会▶



平成24年度の議会報告会を本年10月下旬、大字川崎、安真木、田原及び池尻の4ブロック毎に開催する予定です。

詳細は別途お知らせしますが、概要は下記のとおりです。

議会(議員)は「町民の皆さまの信託を受け、町民のための町政を進めること」が使命

であります。そのためには、①町民に対する積極的な情報の公開 ②政策決定への町民の意見、要望の反映が不可欠であると考えています。

多くの町民の皆さまにご参加いただき、議会報告を行い、よりよい町政を進めるためのご意見、ご要望を期待しています。

記

1. 日 時:平成24年10月22日(月)から26日(金)の間 午後6時30分から2時間程度
2. 議会報告会テーマ ①9月定例会の概況報告
②議会だより8月号(6月会議)に基づく説明
③質疑応答・意見要望

川崎町議会への研修視察来町一覧表

	視 察 日	来 町 議 会	研 修 内 容
1	H21. 5.14	北海道標津郡中標津町	議会報告会
2	H21.11.17	宮城県加美郡色麻町	議会報告会
3	H22. 1.28	長崎県東彼杵郡川棚町	議会中継・議会活性化
4	H22. 7.21	熊本県菊池郡大津町	議会改革・議会基本条例
5	H22.10. 7	鹿児島県曽於郡大崎町	議会基本条例
6	H22.10.19	和歌山県日高川郡町議会事務協議会	議会改革
7	H22.10.21	長崎県北松浦郡小値賀町	議会基本条例
8	H22.11. 4	石川県河北郡津幡町	議会基本条例
9	H22.11.11	福岡県糟屋郡粕屋町	議会基本条例
10	H23. 1.17	沖縄県島尻郡南風原町	議会基本条例
11	H23. 1.20	高知県高岡郡梶原町	議会基本条例
12	H23. 7.19	福岡県うきは市	議会基本条例・議会報告会
13	H23. 7.20	宮崎県北諸県郡三股町	議会基本条例
14	H23. 7.21	兵庫県川辺郡猪名川町	議会基本条例
15	H23. 8.22	広島県安芸郡府中町	議会基本条例
16	H23. 8.24	広島県安芸郡坂町	議会基本条例
17	H23. 9.28	長崎県西彼杵郡長与町	議会基本条例・議会報告会
18	H23. 9.29	宮崎県児湯郡新富町	議会基本条例
19	H23.10.13	鳥取県東伯郡三朝町	議会活性化
20	H23.10.20	熊本県阿蘇市町村議会事務局長会	議会運営
21	H23.11.25	熊本県上益城郡御船町	議員定数削減
22	H23.11.28	佐賀県三養基郡基山町	議事録作成支援システム
23	H24. 2. 3	宮崎県西諸県郡高原町	通年議会
24	H24. 5.17	福井県大野市	通年議会
25	H24. 7.18	岩手県岩手郡滝沢村	議会基本条例・通年議会
26	H24. 7.19	兵庫県加古郡稲美町	議会基本条例・議会中継

都道府県	市町村数
北海道	1
岩 手	1
宮 城	1
石 川	1
福 井	1
兵 庫	2
和歌山	1
鳥 取	1
広 島	2
高 知	1
福 岡	2
佐 賀	1
長 崎	3
熊 本	3
宮 崎	3
鹿児島	1
沖 縄	1
計	26

川崎町議会では、平成22年7月「川崎町議会基本条例」を可決、施行以来、議会改革に精力的に取り組んでいます。これらの取り組みが全国的に知られ、おかげさまで平成21年5月以降、全国の多くの市町村議会から研修視察に訪れています。



▲福井県大野市議会が来町



瓜野かをり
議員

Q 児童生徒の通学路の安全確保は

A 実施に向け県と協議する

【問】 最近集団登下校時に居眠りや、わき見運転、はなはだしいのは無免許運転により、生徒の列に突っ込むなど、考えられないことが頻繁に発生しています。中には、引率していた母親までもが巻き込まれ、お腹の子どもとともに亡くなられたと報道されていました。心からお悔やみ申し上げます。

このような悲惨な事故に多くの児童生徒が巻き込まれ、尊い命がいとも簡単に失われています。保護者や地域のボランティアの皆さんが、児童生徒の交通安全指導に尽力されても、運転している人の交通ルールの欠如が最大の要因だと思います。

また通学路にも問題があると考えています。幅員が狭く、白線を引いただけで、ガードレールや歩道柵も設置されてなく、通学路として安全とは思えません。学校、警察、保護者と道路管理者が連携して、一斉調査を実施することが重要です。町長の見解を尋ねます。

【答】小田町長 児童生徒の通学路の安全確保と整備点検については、まさにそのとおりで、交通事故から子どもを守ることは、最も重

要です。

今後町道については、町が独自に推進します。県道については、県と協議し、年次計画を立て実施できるように要望します。



Q 緊急医療情報キットの配布をしては

A 安心カードを普及させる

【問】 緊急医療情報キットとは、一人暮らしや家族がいないときに急病で倒れ、何とか救急車を呼ぶことができたり、近所の人気付く救急車を呼び、救急隊が駆け付けた時にその人にどんな病歴や持病があるのか、かかりつけの医院、血液型、生年月日、連絡先などを保管容器に入れ、冷蔵庫等に保管する方法で、救急隊員にいち早く個人情報伝えるシステムです。

田川地区管内の一部で、緊急安全カードを田川医師会、飯塚医師会、鞍手直方医師会、消防署、自治体、各保健所等で高齢者に配慮して作成されたと聞いていますが、カードであれば水に濡れたり、破れたり、保管場所が異なったりして救急隊員の確認が困難です。本

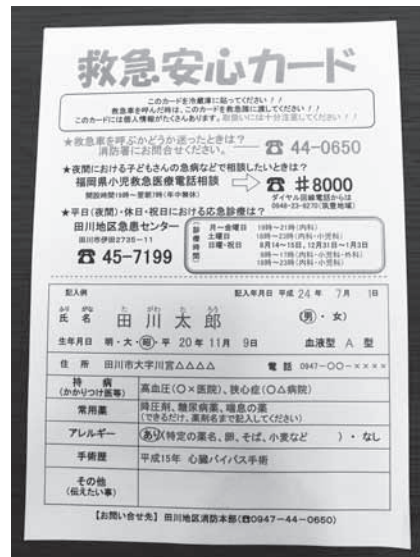
町においても高齢者の安全を考慮して、緊急医療環境の整備と推進が喫緊の課題と考えていますが、町長のお考えを尋ねます。

【答】小田町長 緊急医療情報キットは、救急隊員に個人情報が入ることで、敏速な措置が可能となります。

本町では、救急安全カードを作成し、昨年の11月の広報かわさきで掲載しました。今年7月の広報かわさきで全戸に配布する予定です。安心カードを冷蔵庫に貼って、救急隊員にわかりやすくし、さらに普及させ緊急事態に備えます。

【要望】

カードであれば、破損したり、濡れたり、汚れたりするので、確実に冷蔵庫に貼れるように、早急に整備してください。



▲救急安心カード

長崎県西彼杵郡 時津町議会を研修視察

議会運営委員会

去る5月21日、長崎県時津町議会への研修視察を実施しました。

時津町は大村湾の南に位置し、長崎市に隣接する町で、人口は約3万人。近年長崎市のベッドタウン化が進み、また郊外型商業施設の出店も多く、交通の要衝として人と物の交流が盛んな町として発展しています。

研修目的は「議会基本条例、議会報告会、その他議会運営に関する事項」です。

当議会からは正副議長、議会運営委員会メンバーに事務局の11名が参加しました。時津町からは、議長、議会運営委員長はじめ事務局を含む5名で歓迎いただき、約2時間にわたって種々ご教示いただきました。

視察結果を整理すると次のとおりであり、十分吟味して参考とすべき事項は今後の議会運営に反映させ、議会の活性化に生かしたいと思います。

1、議会基本条例

(1)平成17年～21年の間、2度にわたり議会改革特別委員会を設置して、議会議員定数の削減及び常任委員会の統廃合を実施した。

(2)平成21年6月、再度議会改革特別委員会を設置して、議会報告会を試行するなど、基本条例に関する意見聴取、素案を作成のうえ、平成23年3月議会において可決、成立させた。

(3)現基本条例には、通年議会や反問権は導入していないが、特に通年議会については、導入する方向で検討中である。



▲研修風景（時津町議会にて）

2、議会報告会

(1)基本条例制定前の平成22年5月に議会報告会を試行的に実施。基本条例に年2回以上の議会報告会開催を規定して取り組んでいる。

- (2)議会報告会の実施概要は次のとおり。
- ・第1回(試行) 22年5月
町内10会場、5班編成、参加192名
 - ・第2回 23年11月
町内4会場、2班編成、参加86名
 - ・第3回 24年5月
町内6会場、2班編成、参加(不明)

3、その他の参考事項

- (1)毎年の定例議会の年間計画(日程)を前年12月の定例会中に決定している。
- (2)一般質問は執行部の議案提起の翌日から2、3日間を要して実施。
- (3)予算、決算案の委員会審議に3日間程度の日数を要している。
- (4)最終本会議前に全員協議会を開催し、付託案件についての事前協議、意識統一を図っている。



千葉加代子
議員

Q 乳幼児医療費無料化の拡大は
A 時間をかけ検討課題にしたい

【問】 昨年、就学前まで無料になり、対象者の保護者から大変喜ばれていますが、県内の現状を見ると、通院は、小学校3年生までや6年生までを対象とするところが増え、入院費については中学校3年生まで、中には、18歳まで補助しているところもあります。

財政が厳しいのは承知しておりますが、年齢の引き上げはできないでしょうか。

【答】小田町長 昨年の9月議会でご理解いただき、10月から実施して医療費の確定もしていないので、時間をいただいて検討課題にさせていただきたいと思います。



Q 防災会議に女性委員を
A できるだけ登用したい

【問】 川崎町の防災会議条例には、委員について指定行政機関や警察、消防団長等女性が入る余地がないと思われませんが、町長の考えを聞かせて下さい。

平成22年12月17日に第3次男女共同参画第14分野が閣議決定しましたが、これは、地域、防災、環境その他の分野における男女共同参画を重要分野にしているものです。防災の取り

組みを進めるにあたっては、男女のニーズの違い等を把握し、復興段階における諸問題の解決に男女共同参画の視点を取り入れた体制を確立するとあります。

【答】小田町長 防災会議名簿の役職には、今、女性が就いてないので有識者という形で女性をできるだけ登用したいと考えています。

Q 新ごみ処理施設の建設場所は
A 精力的に選定していく

【問】 新ごみ処理施設の建設場所について、現在の状況を教えて下さい。

【答】小田町長 清掃施設組合の焼却施設それから最終処分場のことと思いますが、2月、伊藤市長が候補地である岩鼻、伊加利地区を断念し、辞任の申し出をし、4月1日から私が、組合長になりました。

協定では、焼却施設は、田川市・川崎町の地内、最終処分場は下田川の地内になっていますので、4月末に正副組合長会議を開き、田川市・川崎町で住民が理解し、話し合いができる場所の選定をしていきます。

【問】 ゴミは、人口の減少や分別収集によって減ってきていると思います。ゴミ処理は、焼却する方式と非焼却方式があり、非焼却方式の方が圧倒的に優れていると言われます。ただ、取り入れたところが少なく、実績がありません。

その中でも炭素化法は、広範な種類のゴミを処理対象にして、有機物を炭素化、無機物を元の形のままで資源回収できる優れたゴミ処理法といわれています。選択肢の1つに是非加えて検討してください。

【答】小田町長 具体的な焼却方式については、決定されていません。以前決定していたのは、ストーカプラス灰熔

融炉という方式で、組合議会のほうで決定がされていましたが、二重焼却方式で色々問題がありまして白紙に戻った状況であります。焼却方式を決めないと先に進まないでゴミの量に見合った施設と熱の利用、リサイクル等を基本に考えております。



▲現在の田川市川崎町清掃センター

Q 田原交差点の渋滞緩和は
A 県と協議し取り組む

【問】 国道322号線と県道95号線の田原交差点は、現在でも渋滞がひどく、時間帯によっては、何度も信号待ちをしている状態です。

交差点付近に大型店の進出が決まっていますが、渋滞を緩和する方法をお考えですか。

【答】小田町長 県道に右折車線がなく、県土木事務所に以前から要望を出し、陳情も致しました。

先日、パワーコメリも地鎮祭が終わり、12月には開店するのではと思います。その中で国道322号線から手嶋歯科の手前側、県道に並行して9m道路を作ることが条件で、県との協議が終わっているようです。

バイパス的な道路ができますので、若干の改善はされるかもしれませんが、県道側の通りが多く、右折車線をつけないと混雑が緩和されなと思っておりますので、今後とも県と協議しながら右折車線の実現に向けて頑張っていきます。

Q TPP 問題について町長の
見解を
A 国の方向は未定であり、
国民的議論の結果を待ちたい

【問】 TPP(環太平洋経済連携協定)問題について、JAや医師会、さらには各都道府県でも反対を表明している中で、輸出産業が「TPPは国益である」と主張し、国としてもTPP参加の方向を強めているような情勢にあります。

わが川崎町は農業が基幹産業であり、かつ大部分が小規模農家、兼業農家です。TPP参加が決まれば大変厳しい影響を受けると考えます。

TPP問題に関する町長の見解と川崎町の農地の耕作面積の規模別の世帯数について、実情を教えてください。

【答】小田町長 民主党も政府自体もバラバラで、まだ方向は定まっていないし、産業によっても立場が異なる問題であり、今の段階で我々がどうこうするものはないと考えています。

川崎町の耕作面積の規模別戸数は5ha(ヘクタール)以上3戸、1ha～5ha75戸、0.4ha～1ha165戸、0.1ha～0.4ha167戸合計410戸であり、町内に大規模農家は確かに少ないです。

【問】 TPPは関税撤廃が前提であり、農家の立場に立てば、安価な外国産業と否応なしに競争になります。これに対応するために農地の集約化が論じられていますが、日本の米どころ秋田県でも一戸平均17haであり、米国などには到底太刀打ちできません。また、小規模農家も一時的な助成金があったとしても、先祖から受け継いだ農地を手放すとは思えません。

TPPが国益であるという一方で、農林水産省(23年度)の試算によれば、TPP参加によって、農業生産41兆円の減収、国内総生産7.9兆円の減、食糧自給率現在40%が14%に低下、さらには雇用が340万人の減となるというデータを示しています。

万一TPP参加に歯止めがかけられない場合も含めて、小規模農家への影響を最小限にくい止める方向で近隣市町村とも連携して意見表明を行うべきで



伊藤英明
議員

題として川崎幼稚園、愛光園の改築など、町民の生活のために投資的事業を進めていきます。

【問】 町長の答弁内容は必要なことから我々も賛同しています。しかし箱物づくりは町の収入にはつながらないし、将来町の独自収入確保につながる意味での投資的な事業について質問しています。

今、山本作兵衛氏の炭坑記録画が世界記憶遺産に登録され、伊藤佐右衛門邸と並んで産炭地筑豊が大きくクローズアップしています。直方市も石炭記念館を改修する計画を打ち出しています。

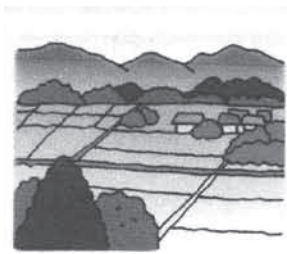
川崎町は農業を除けば観光開発しか道はなく、観光協会も設立しました。そこで町内には多く坑道が残存しており、坑道を利用した「石炭地底博物館」を建設することを提案したいと思いますが、膨大な経費、工事の困難性は伴いますが、石炭資料館はありますが、地底博物館はありません。

【答】小田町長 山本作兵衛人気は一時的なものと思われ、川渡り神幸祭を含めてもこれだけでは田川の観光は発展しないという観点から、私が提案して田川観光協会を発足させ、川崎にも設立しました。先に行われた「かわさきパン博」のように、今ある施設を活かして人が集まる仕掛けをすることが大事だと思います。川崎にも大峰などに炭坑遺産は多く残っており、これらを生かした石炭資料館を作るのはいいことだと思います。しかし、閉鎖して水が貯まった坑道に地底博物館を作るというのは、危険すぎて物理的にも困難だと思います。

はないでしょうか。

【答】小田町長 政府自体の方向が定かではないし、早急に参加が決まるとも思えません。農業生産では41兆円の減ですが、テレビや自動車産業など関税のためにその10～20倍もの減の状況にあります。韓国はTPP参加で関税がなくなり、工業用品はもちろん農業にも好結果をもたらしており、国が農業生産に対して全面的な支援を行っています。

私個人の考え方では、TPP問題を国民的議論として進め、将来的には工業のためにも農業のためにも有益であり、国益につながると考えています。



Q 町収入につながる投資的事業
推進を

A 今ある施設を活かして人集めを

【問】 町長が就任時から4つの約束を提起し、特に大型量販店の誘致が具体化することは、非常に喜ばしく期待をしています。

ところで、町財政が非常に厳しい状況にあることは、十分承知のうえの提案ですが、川崎町の将来を考える時に、町財政の独自収入の増大に結びつくような投資的な事業推進も最小限検討すべきだと考えますが、町長の見解をお尋ねします。

【答】小田町長 昨年の選挙で町民の生活と命を守るとの公約をし、昨年は医療制度の改善を進め、健康診断の無料化も開始しました。今年は、真崎小学校の体育館の改築、同和保育所の改築等も計画しています。

来年からは町営住宅長寿命化計画が始まり、10年間で少なくとも50億以上、さらに田川地区清掃施設組合で100億から200億の経費がかかります。今後の課



掛橋 要一 議員

Q 行政区を中心とした川崎町特産品の開発を行っては

A 積極的に行政区に声をかけていきたい

【問】 行政区を中心とした川崎町特産品の開発と地域の活性化について、お伺いします。

昨年 5 月「山本作兵衛コレクション」が日本で初めてユネスコ世界記憶遺産に登録されました。これを契機に地域活性化・教育・文化の振興など幅広く町づくりにつなげていく機運が田川をはじめとして、筑豊全体に広がっています。

本町も観光協会を設立し、先日行われた「かわさきバン博」をはじめ、今後さまざまなイベントを企画していることと思います。

バン博も予想以上の来場者が訪れ、1、2 時間ほどで売り切れたと伺っています。しかし継続して町外の観光客を呼び込むには、新たな観光資源が必要だと思えます。

かつて大分県の平松知事が行った一村一品運動にちなんで、1 行政区 1 品運動を奨励し、新たな特産品の開発を行ってはいかがでしょうか。

各行政区に協力してもらうことで、近年失われつつある地域の絆や区民減少による財政難の解消にもつながると思えますが、町長のお考えを聞かせてください。

【答】小田町長 1960 年頃大分県の平松知事の提唱で、一村一品運動がはじまり各市町村で特色ある物産作りが行われました。その中の大山町では、

梅を作ってハワイに行こう！の掛け声の下、梅の生産や梅干し作りがはじまり、大分県が大いに発展したという事例もあります。

本町としましては、行政区に声をかけ、それぞれ各行政区の特色を生かした物産作りについて提案をしていきたいと思えます。

それにより、町づくりや地域づくりなどにつながると思いますが、それが行政区民の生きがいにもつながると思えます。そういう意味で、町としても積極的に行政区に声をかけていきたいと思えます。



Q 他国との人材交流を行っては

A 前向きに検討します

【問】 小・中学校生の他国との人材交流について伺います。

近年中国をはじめアジアの国々の発展は、めざましいものがあります。これから 10 年先、3 か国語くらい話せないと社会では通用しないとも言われています。そういった背景もあり、早い時期に国際感覚を身につけることが必要だと思います。

隣りの田川市では、10 年ほど前から韓国吐月（とうる）初等学校と姉妹校の調印を結び、留学生を受け入れています。

本町でも小・中学校の授業の一環として、これから発展が見込まれるアジア圏の子どもたちとの交流を推進し、姉妹校としてインターネットを通じた授業の様子や留学生の受け入れ等、いわゆるホームステイの環境を整えてはいかがでしょうか。町長、教育長のお考えを聞かせてください。

【答】小田町長 議員が言われたように中国、韓国を中心とするアジア諸国の発展は目覚ましく、語学においても日本人が世界で一番苦手な民族だと思います。中学 3 年間、高校 3 年間、大学 4 年間 10 年間勉強して英語が話せる人はほとんどいません。

今から 15 年から 20 年前の話になりますが、私自身韓国の液晶パネルの工場に見学に行き、衝撃を受けました。日本に 50 インチの液晶パネルが発売されたときに韓国では、70 インチや 80 インチのパネルが生産されていました。

いつの間にか日本は追い越されていたのに、日本の誰も気が付かなかったわけです。発展している国々を子どもたちに見せないと、そういう国に太刀打ちできないと思えます。

議員の提案はタイムリーでいいことだと思いますので、私自身の気持ちとしては、是非取り組んでいきたいと思えます。

【答】松本教育長 田川市の小学校で、平成 9 年より PTA 主導で国際交流を推進し、継続性を考慮して韓国の小学校と交流を行っていると聞いています。

インターネット等を利用した外国の学校との交流授業、これは文科省による国際理解教育の 1 つであり、意義深いものであると認識していますが、実施にあたっては年間授業日数の確保の関係、また設備の充実、外国語の習得など多くの課題があります。

今後は交流を図っている他市町村の取り組み状況などを考慮しながら、検討したいと思えます。

ホームステイの件ですが、人的交流に関しましては、学校教育の一環として行うには多くの課題があり、実施は困難であると考えています。実施するのであれば、国や県などが行っている青年海外体験交流事業などへの参加が最善だと考えています。

Q 量販店コメリ進出に伴う道路整備について町からの説明がないが

A 民間の事業であり承知していない

【問】 量販店のコメリが田原交差点周辺に進出するとの説明会が、4 月下旬にありました。

道路整備も伴うとのことでしたが、町の道路整備計画にはありません。いったいどうなっているのですか。事業主体、事業量、事業費、財源は。

【答】小田町長 建設の事業主体は、コメリであり町としては承知しておりません。

【問】 道路の帰属問題もあり、民間事業であれ、何であれ町としては事業をきちんと把握しておき、議会に説明するのが基本ではないですか。

【答】小田町長 コメリとの協議では、出来上がった段階で町道認定し、町が管理することにしています。



Q 観光振興にどう取り組むのか

A 広域連携が求められている

【問】 本町の観光振興の必要性が叫ばれて久しいが、ここに来てようやく田川広域観光協議会と川崎町観光協会が設置され、新たな時代に入りました。

観光振興に関して具体的に次の事を尋ねます。

①観光振興のイメージは

②「De愛」の施設拡充計画は

③魚楽園に至る町道拡幅は

④旧湯～遊～共和国周辺の再開発は

【答】小田町長 ① 1 町単独では不十分。広域連携を念頭に入れ施設整備すべきで、本町でも戸山原古墳公園事業の調査を始めています。

②「De愛」の景観は県内でも一番優れています。景観を生かした施設の拡充を行い、観光誘致をはかります。

③多くの観光客がきているのは承知していますので、道路整備の必要性については協議します。

④周辺にゴミが散乱して困っているとの陳情が来ており、破産管財人に注意していますが、なおっていません。東京の不動産屋から「湯～遊～」買収の話も聞いています。

【問】 個別事案もさることながらブランドデザインが必要。この際、観光基本条例制定を提案しますが、どうですか。

【答】小田町長 条例はともかく、観光戦略的な計画については検討していきます。

Q 独立行政法人の病院を町立になぜ戻すのか

A 町立病院が赤字だったことはない

【問】 町直営の病院経営は赤字が予想されるため、健全経営を目指して、経営形態の検討を 1 年かけて行いました。なぜ再び町立に戻すのか理解できません。これまでどんな議論を行ったのですか。

【答】小田町長 赤字赤字と煽りたてて直営から独法にした経緯があります。この 1 年間の決算が出て、評価委員会の審査を経て検討に入ります。

町議会、県議会、国との協議があり、手続き的には厳しいが私は、直営が望ましいと思っています。

【問】 赤字じゃなかった根拠を直近 10 年の資料を出して説明して頂きたい。

【答】小田町長 病院建設当初は減価償却の関係で赤字も多少ありましたが、



櫻井 英夫 議員

将来的には黒字になるとの見通しを持っていました。

評価委員会の議論をふまえ、議会で議論していきたいと思っています。

Q 土曜日授業は再開可能か

A 学校週 5 日制は変わらない

【問】 土曜授業の再開が報道されています。それが可能なら、わざわざ税金を注ぎこむ公設塾を始めなくても済むのではないですか。

【答】松本教育長 土曜日授業は通常授業の形態ではありません。家庭、地域住民等外部人材の協力を得て行う公開授業です。

そもそも土曜日授業と公設塾の性格は異なり、塾の方は個別指導方式による学力向上を目指しています。

Q 国旗国歌を尊重する教育を

A 保護者にも理解してもらうよう努力をする

【問】 厳粛な入学式の国歌斉唱時、保護者より「座れ」の号令が飛び、驚かされました。

今後、公式行事でこのような事がないように指導して頂きたい。

【答】松本教育長 小中学校では児童・生徒に対し国旗国歌法及び文科省の学習指導要領により指導しています。

保護者には思想、良心の自由があり強制は難しいですが、式典の意義も含め理解して頂くよう努めてまいります。

民生文教常任委員会

①所管の施設を現地調査

民生文教常任委員会では、4月16日に所管施設の現状把握のため、愛光園、大峰浄水場、川崎幼稚園、同和保育所の現地調査を行いました。

愛光園については、定員50名に対し、入所者21名、職員が12名体制で運営されており、施設や設備において老朽化が著しく、対応を急ぐ案件が多く、委員会としての行動が必要だと判断し、明確な対応を得る必要を確認して園を後にしました。



▶天井の雨もり



◀愛光園にて

大峰浄水場は、昭和47年から稼働している施設で、こちらも老朽化が目立ち、平成29年の伊良原ダム完成を待ち、浄水場総合計画を推進して、早期の取水切り替えが望ましいと認識しました。

川崎幼稚園は、園児48名、職員7名体制で、こちらの施設も老朽化してきており、園児の安全確保のための補修を何点か確認しました。

同和保育所は、定員130名に対し、入園児101名、職員は25名体制での運営ですが、建て替えて予算化されているように老朽化で危険な箇所があり、設備も限度がきていることがうかがえました。

〔まとめ〕

全施設ともに建築年数等から考慮すると、耐震強度に問題があり、建て替えや補強が計画されている施設以外の対策を要請していくとともに、愛光園については、狭い6畳部屋に2人が布団を敷いて寝ており、プライバシーもなく、息苦しさを感じたため、後日文書にて改善要請を執行部に送付したところ、建て替え等の必要性は理解しているが、まだ計画にはないこと、入所環境については、空き部屋の整備をして、一人部屋の確保に努めることなどの回答をいただきました。

建設産業常任委員会

調査項目は3項目です。

①小中学校の耐震強度の調査

町内の小中学校の耐震強度は、耐震基準を満たしているとのことです。

②同和対策事業で建設した施設の現状調査

①同和向け住宅の現状について

町内には24団地あり、630戸の同和住宅があります。入居率は安全確認ができない住宅を除き、ほぼ100%となっています。

②大型作業場の状況について

6つの作業場があります。必ずしも十分な活用がされているとはいえない状況です。施設の建設から期間が経過し、担当職員も代わっている

ため、今後も引き続き調査を行うこととします。

③町内道路整備計画

過疎対策事業6ヶ所と辺地対策事業です。川崎町より県土整備事務所（旧田川土木事務所）に要望している県道は、田原交差点に右折レーンの設置要望です。



◀渋滞する田原交差点

追跡レポート

あの質問はどうなったの？

防災対策について

小中学生に数多くの防災教育、訓練を実施しては？また地震に対する備え、心構えのマニュアルの広報紙掲載を望む。
（谷口議員：平成23年6月議会定例会で質問）

ハザードマップの早期作成とインターネット上での公開をしてはどうか。
（千葉議員：平成23年12月議会定例会で質問）

平成24年4月に川崎町防災マップを作成、全戸に配布しました。また、川崎町ホームページでも掲載し、いつでも見られるようにしています。学校でも防災マップを活用し、防災教育や自主訓練を行っています。今後は、防災に関わる説明会や講演会などを行っていく予定です。



もっと知りたい 委員会レポート

常任委員会の
活動状況を
報告します

総務常任委員会

総務常任委員会では、次の2つの項目について調査をしました。

①町有財産の状況について

町有財産の状況については、認可地縁団体の設立状況について、執行部の説明を受けました。説明では7つの地縁団体が設立、内訳は川崎町森安行政区、川崎町東川崎行政区、川崎町黒木、大島行政区、田原三区会、池尻行政区、川崎町下真崎行政区です。この認可地縁団体の設立については、平成20年度に川崎町が全行政区に説明を行い、平成25年度（平成26年3月31日まで）に認可地縁団体設立と土地の移転登記の手続きをしないと行政区が管理している町名義の不動産すべては川崎町のものになるということです。

また、5行政区が認可地縁団体の設立を検討しています。その内訳は、



安宅行政区、木城行政区、太田行政区、永井行政区、米田行政区です。

＊認可地縁団体とは

今まで行政区が管理していた川崎町名義の不動産を行政区が保有する目的で一定の手続きをし、市町村長の認可を受けた団体を認可地縁団体といいます。

②財政状況について

財政状況の調査については、川崎町の将来の財政見通しはどうかを執行部から説明を受けました。

それによると、現在の財政の中期目標（10年間）は平成21年度決算後のものであり、平成24年度より実施される、町営住宅長寿命化計画や町立同和保育所建設等が入っていないので、平成23年度決算後に中期財政見通しを作成するとの説明でした。

傍聴席

今月は、竹下設計事務所の代表者竹下守壽氏より投稿いただきましたので紹介します。



もりひさ 竹下 守壽氏 (森安)

今までに何度か川崎町議会を傍聴しました。経営者の一人として感じたまさを述べてさせていただきます。

議場で見る町長並びに議員各位が規律正しく、真剣に一般質問等の議題を進行しているのを、いつも感心して見聞しています。

6月議会(一般質問)でも、5名の議員の方々が意見を述べられ、質疑、応答の様子を傍聴させていただきました。特に関心を持ったのは、児童生徒の通学路の安全確保、テレビ、新聞でも報じられるように通学中の児童生徒の列に車が突っ込む事故が度々報道されます。子どもは国の宝、一日も早い安全確保、整備点検が必要だと思いました。

川崎町も昔は産炭地で炭坑労働者も多く、町民の中には炭坑関係の写真や絵画などを所有している人がいるのではないだろうか。それらを募集して観光開発に役立てたり、大型店の出店は、一人でも多くの地元住民の雇用を期待したいものです。また川崎町特産品開発、観光推進には、De愛などの地場産業を利用することで川崎町が発展するのではないだろうか。私も事業者の一人として、地元でできることは、地元業者だけで消化していけたらよいのではないかと思います。

他の市町村の議会を何度か傍聴しましたが、中には暴言をはいたり、騒いだりして、議事進行を妨げる議会の市町村もありました。川崎町議会においては、そのようなことは一度もなく、傍聴させていただきました。

今後も町民の代表として議員各位には、一層の努力を町民の一人として願っております。

貴重なご意見をありがとうございました。今後とも川崎町議会にご協力をお願いいたします。

議会日誌

4月

2日 第1回定例会
19日 議会運営委員会

特別委員会

13日 議会だより編集委員会
19日 議会だより編集委員会

常任委員会

6日 建設産業委員会
16日 民生文教委員会
20日 総務委員会
20日 建設産業委員会

5月

8日 全員協議会
29日 議会運営委員会
常任委員会

8日 総務委員会
15日 建設産業委員会
16日 総務委員会
18日 民生文教委員会
23日 建設産業委員会

6月

第2回定例会

5日 本会議
6日 委員会
7日 議会運営委員会
8日 本会議
11日 委員会
12日 補正予算特別委員会
13日 本会議(一般質問)
14日 本会議
14日 全員協議会
26日 議会運営委員会
特別委員会
5日 議会だより編集委員会
14日 議会だより編集委員会

編集後記

6月の定例会(議会)を終えた。農家にとって最も忙しい時期の議会は毎年のことながら、いささか恐縮な気がする。

6月下旬、町内の水田一面に早苗が植えつけられ、水無月も終りを告げようとしている。この時期、地域によっては“さなぶり”(皆作祭)といって昔ながらに五穀豊穡を願い、田植終了を祝う祈願祭の風習が残っている。

ところで、10月神無月は「神々が出雲に集まり神が留守をする月」と言われているが、水無月を水の無い月と解するのは腑に落ちないと思っていた。最近目にしたものの本によれば、「無」は「の」が転じたもので、「神々が出雲へ…」は俗説であり、「神の月」「水の月」を解するべきであると解説されていた。

水田一面に水が溢れるこの梅雨時、「水の無い月」では納得がいかず、田に水を引き川の水が底をつくとの意かなどと、さまざま想いを巡らせて、我ながら忸怩たる思いがした次第である。

何はともあれ、皆作祭を迎え、みのりの秋の豊作を祈るばかりである。



【発行責任者】

議長 見月 勸

【議会だより編集特別委員会】

委員長 小松 孝一
副委員長 有田 浩二
委員 樋口 秀隆
委員 千住 幹雄
委員 伊藤 英明
委員 掛橋 要一

(表紙題字…伊藤 英明書)